

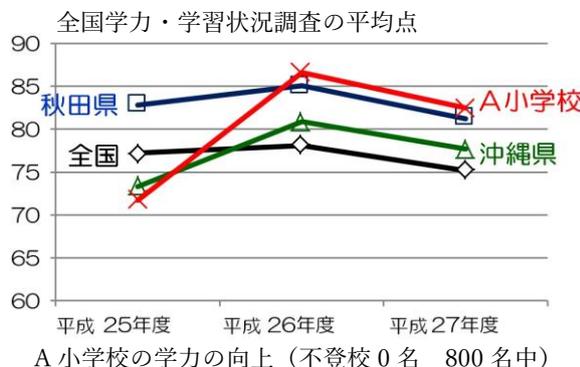
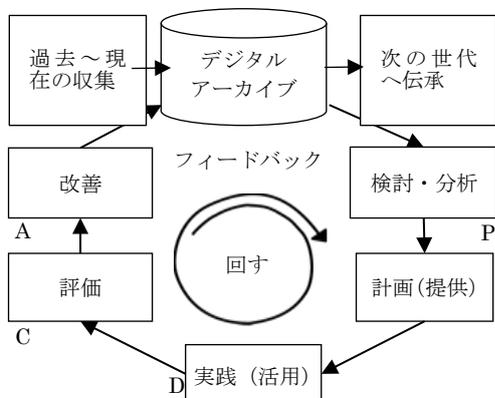
## デジタルアーカイブの利活用成果のフィードバック

～デジタルコンテンツの価値を高めるために～

後藤忠彦（岐阜女子大学）

### 地域・アーカイブ機関でのフィードバックを用いた改善

デジタルアーカイブの利活用が進みだし、その活用成果が各方面で見られるようになってきた。たとえば、岐阜女子大学の沖縄サテライト校では、過去の教育実践資料をデジタル化・保管し、その中から学習指導、学力の向上に関係のあるデジタルコンテンツを検討、抽出し、利活用の計画表を作成、提供し、実践（活用）した。その結果を評価し問題点の改善がなされた。その改善点等を保管し、次の実践で役立てた。このような活用成果のフィードバックデータを保管、活用した結果、A校では、次のように大きく学力が向上した。（2013年～）



また、“沖縄おうらい”観光デジタルアーカイブでは、毎年、観光での活用とその結果を調査し、改善をしている。（毎年1万数千名利用）（2012年～）

“沖縄おうらい”の改善の方法は、利用者の調査結果から“どのような地域文化資料を追加すべきか”“利用上の改善点”の二つの視点で要望に対応し処理している。すなわち、

- ①リンク；要請され地域文化資料（コンテンツ）の追加
- ②成果の利用；利用した結果の要望に対応し改善

がなされている。（2012年から毎年改善してきた。）

このように機関内では、すでに、デジタルアーカイブの活用の成果が2012年頃から始まっている。上図の例のように、沖縄の小学校の学習指導、学力向上やその他観光の提示・提供、前年の改善等にも役立っている。

## つなぎ役と活用成果のフィードバック

デジタルアーカイブの流通が整備されだし、つなぎ役（ハブ、統合ポータル等）を通じて、デジタルコンテンツの利活用が進もうとしている。情報化社会の情報の流通は、物流の一方方向性と違い、双方向性が特色である。つなぎ役でも当然双方向性が課題となる。たとえば「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン 概要版」（平成 29 年 4 月）デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会（内閣府知的財産戦略推進事務局）では、次のように報告されている。

「第 4 章データを活用するにあたって」

（４）活用の結果できた成果物の還元

・活用者は、（２～３章の）データ提供者としてのアーカイブ機関が行うべきことにも取り組む（オープンな利用条件での提供、Linked Data による活用の広がり確保、識別子の付与や長期アクセスの保証等）

・活用者は、データを使った成果について、Twitter 等の SNS や Wikipedia などに積極的に発信する。

・データ提供者であるアーカイブ機関や分野・地域コミュニティに対し（つなぎ役を経由するなどして）、活用者は、付加価値情報や関連付けした情報をフィードバックすることが望ましい。

（５）活用のためのコミュニティ形成

・つなぎ役は、活用を進めるためのコミュニティの形成に寄与し、活用事例の共有の場を設定する。

・アーカイブ機関やつなぎ役は、活用者が使いやすいよう、メタデータに関する解説や、応用の際のヒントになる情報を発信する。

そこで、各アーカイブ機関では、これらのフィードバックデータを整理・保管し役立てるためのデジタルアーカイブのメタデータ、データの構成が必要である。

## 機関内、つなぎ役（ハブ、統合ポータル）のフィードバックデータを保管するメタデータの構成

企業、地域コミュニティ等のアーカイブ機関では、機関内およびつなぎ役（ハブ、統合ポータル）等からの活用成果のフィードバックに対応できる次のような保管の開発が検討されだした。

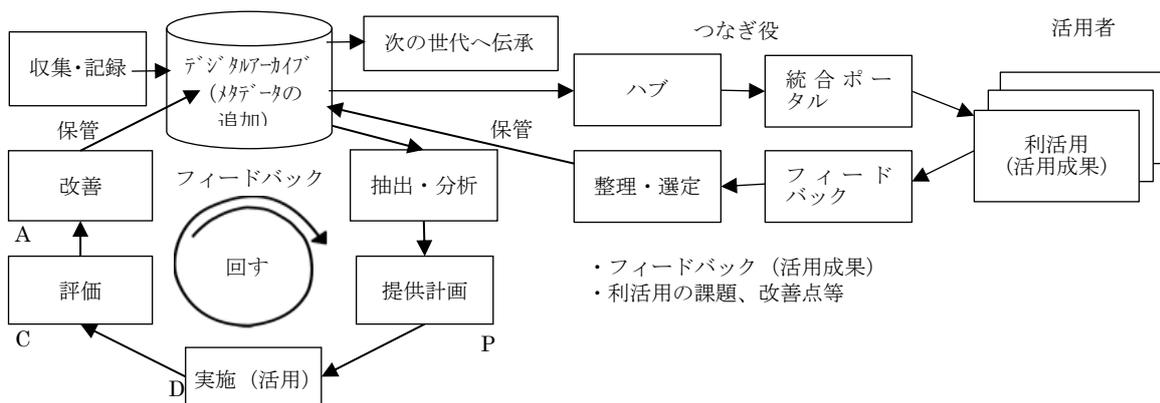


図 アーカイブ機関、つなぎ役を通しての活用成果の保管

今後、つなぎ役（ハブ、統合ポータル）の情報の双方向性、流通によるデジタルコンテンツの価値の追加が期待できる。尚、フィードバックデータを整理、選定し保管するメタデータについては次回に報告する。